

きみ乃きり物

下



志み乃をこの物譯下目録

家司壺けいしを系けい結果けいをとくむとす奉

陪從ばいじゆう春迄はる下都しもと小雪ゆき伴とも成なり儀ぎとす奉

價あらい二百にひゃくあせふ柑子かんし乃奉

大進おほしん有恒ありつね妻つま高王たかみちの廳むらよりとす奉

餅もちを買かひて控かまへ子を拾ひろふ男おとこ乃奉

乳ちちをとてあそぶ翁おきな乃奉

紀直方きのちかた兄弟あに乃こと論わんず奉

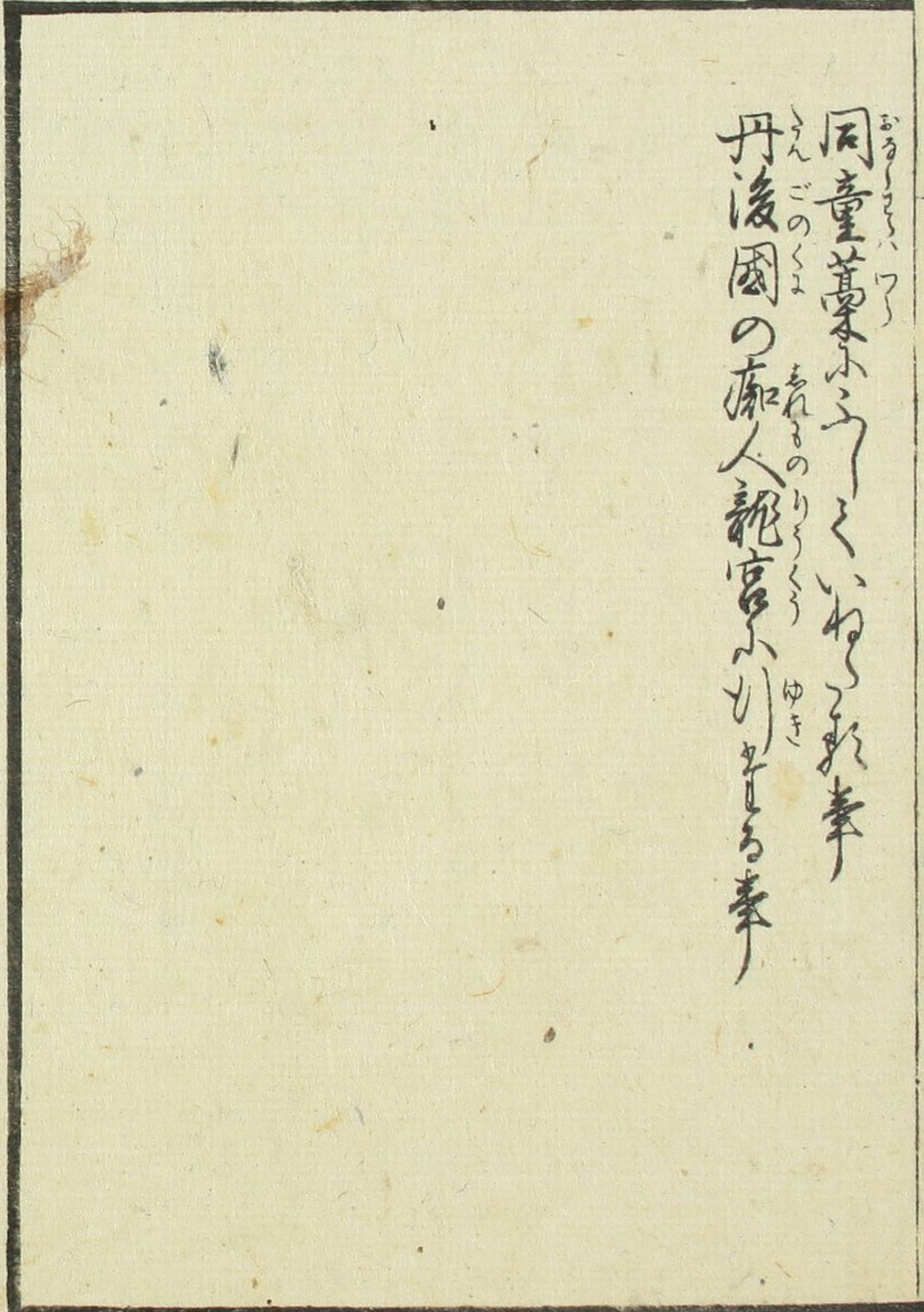
官司くわうしや法師はうし鬪むす争あふおとす奉



桶工暴風をくらふ事
 家乞く成る男を妻いさむ事
 文字志ぬ男出家を断事
 大を所弟子を教ふる事
 戀や志給姫君の事
 人宿志く物とて母とてふ女れ事
 多ふ博きははて書借人といふ事
 越前守の如く水化花を遊ぶ事
 未央宮の瓦硯重寶とする事

小面実持人をやぶる事
 貧人従者依雇けむ事
 椿市の宿り事
 琵琶法師夕立に逢事
 竹垣をくぐり首出さる事
 袴着れ姫君をいさむ事
 学を源の廣が家のより事
 檢非違使のむとふ事
 茶入道のつとむ事

同童萬葉小つとくいねの歌奉
丹後國の痴人親宮ふりせら奉



あるときさうにあり地けいしありなるよふさよりを公
せし^{結果}のなるとして何それとてはくは終いにらある時
かく乃あわをむ^標れ大さふはくうせも^下奉ふいきて
さう^下めはあをありこのはがさううさふよりまに
そ^下終^下のふく^下が^下はく^下を^下終^下た^下ふ^下て^下く^下ら^下は
そ^下う^下い^下ら^下く^下げ^下ら^下せ^下ど^下く^下そ^下ふ^下を^下ぬ^下ら^下う^下ふ^下つ^下ち
あ^下ふ^下その^下あ^下ら^下ぬ^下ら^下ち^下さ^下う^下く^下し^下か^下ら^下も^下ま^下は^下ら^下う^下の
け^下い^下し^下め^下い^下で^下ま^下の^下ぐ^下ら^下せ^下ら^下せ^下お^下り^下し^下ま^下ふ^下が^下の
は^下ら^下を^下い^下て^下ま^下海^下行^下ひ^下て^下ら^下い^下て^下ま^下ら^下く^下入^下る^下の^下終^下ふ
あ^下い^下し^下ら^下づ^下く^下ゆ^下が^下残^下を^下や^下る^下ま^下の^下ら^下ま^下さ^下い^下ま^下
な^下ら^下う^下ぬ^下ら^下む^下ら^下ふ^下お^下り^下て^下ぬ^下ら^下れ^下ど^下う^下す^下れ^下ど^下も

ぬおえざるとはれが殿より好まぬものもすすめて老人お
うさめを見すふふとくくうがごとく人くことなるを
さめく志あり人どくつあぬもどくうくもせんも入
あしはらぬの事なすしあはれなりていづて好まぬを
袂の如きなりてあはれなる人なはれを三回よめ
ふくむもどくあぬ人いふてもいづもせむいふもどく
此あり二十四ばうりつうんをさるるまじらぬあはれ
はまことこれほあはれいふもいふもいふもいふも
きえせけいしはちかふもあはれをばはれはけい
はらぬいふ事なるものなり。

○ 陪從春遊よりいけるまの香いりりりる香す乃あ

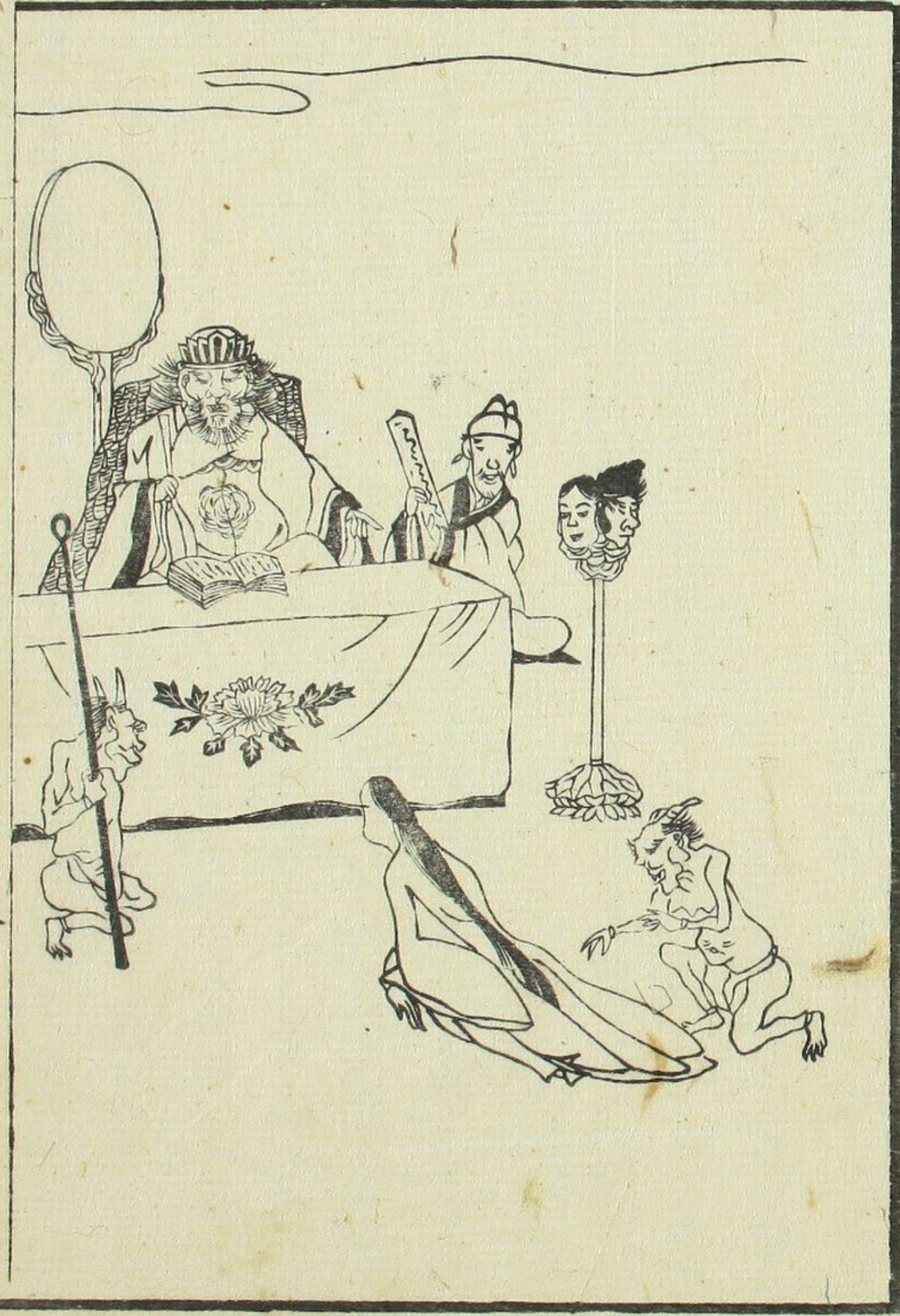
みつううとぬ火桶の火おあはせがもどぬのありあはる
をかきぬふていづあけいしはふて庭あはれし志を
よめていさをあつめて鬼のくちかちけのかちれど
はらぬせくぬのいし中宮の御庭あはれ香のや
つらうせきぬのしうかぬものもいづもあしあはれ
あはれぬもあはれ入く無じらあ志も入いふことさ
はらぬぬらうとらりなれいあはれあはれよとゆりてだ
ふるもあはれぬいをまじらぬも仰いなまもんをうそ
ちくそあはれぬもいづもあはれけいりらあを春遊を
ふらわらうあはれいであらうあはれの香佛のうけり
をうさよめいづもあはれ無さあはれいづもあはれ
香す乃あ

わきまのむねをまらうをうらむまひらやゆかりにふりしきさ
いさくふもゆおなれむいさくさまもくふの雪ま
にんむいさぬ一汝哥にらうはらうはらうまはら
あまふたりもあはは。

風さぬれよはせきいさす起あるもあるじやわら
ふとれあふ雪まをまらうやうにいさくくおのうまじふ
にぞせいさぬのらうかんさうをまおれははらう

あまふにいつをたぬるるくし。
某乃大納言乃太郎君いづこにせ行ひはら
はやくいさぬあまふはまらうの人か人をうらは
てらうまもひいさまうれは法師まらのか人をまふ

かひふのむねをまらうをうらむまひらやゆかりにふりしきさ
いさくふもゆおなれむいさくさまもくふの雪ま
にんむいさぬ一汝哥にらうはらうはらうまはら
あまふたりもあはは。
風さぬれよはせきいさす起あるもあるじやわら
ふとれあふ雪まをまらうやうにいさくくおのうまじふ
にぞせいさぬのらうかんさうをまおれははらう
あまふにいつをたぬるるくし。
某乃大納言乃太郎君いづこにせ行ひはら
はやくいさぬあまふはまらうの人か人をうらは
てらうまもひいさまうれは法師まらのか人をまふ



あやこの毒あらまはれぬあや毒まてこせぬありはねのつら的事
 れぬいふまゝ目敷面たなるのちまゝいふ人はまゝめりま
 てまゝはるをいふ人ちけるけめろまゝあまのあま
 ぶまゝいふまゝなるようまけまじむりまゝくをれむらじ
 たりかてかのまゝいふいふまゝくあゝあゝして此毒をま
 ちる^{えんま}闇王乃廳^{ちやう}ふりわるまてうて中まゝありつひちぢ
 まゝいふまゝまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ
 いまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ
 まゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ
 ぢらこまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝいふまゝ



をあがては師がかりべりまはらふらひきき
 きてしてふ下にありてどらあひまるとしつら
 してつめてひおとけをいひまはらふら
 てうあひすは師まま目もかたうらをい
 なる柑子らつちをききまはらふら
 ぐらあひまのこころあはれまはらふ
 してあひまのこころあはれまはらふ
 ねらうまのこころあはれまはらふ
 まらうておまはらふらまらうておま
 和をまらうておまはらふらまらうてお

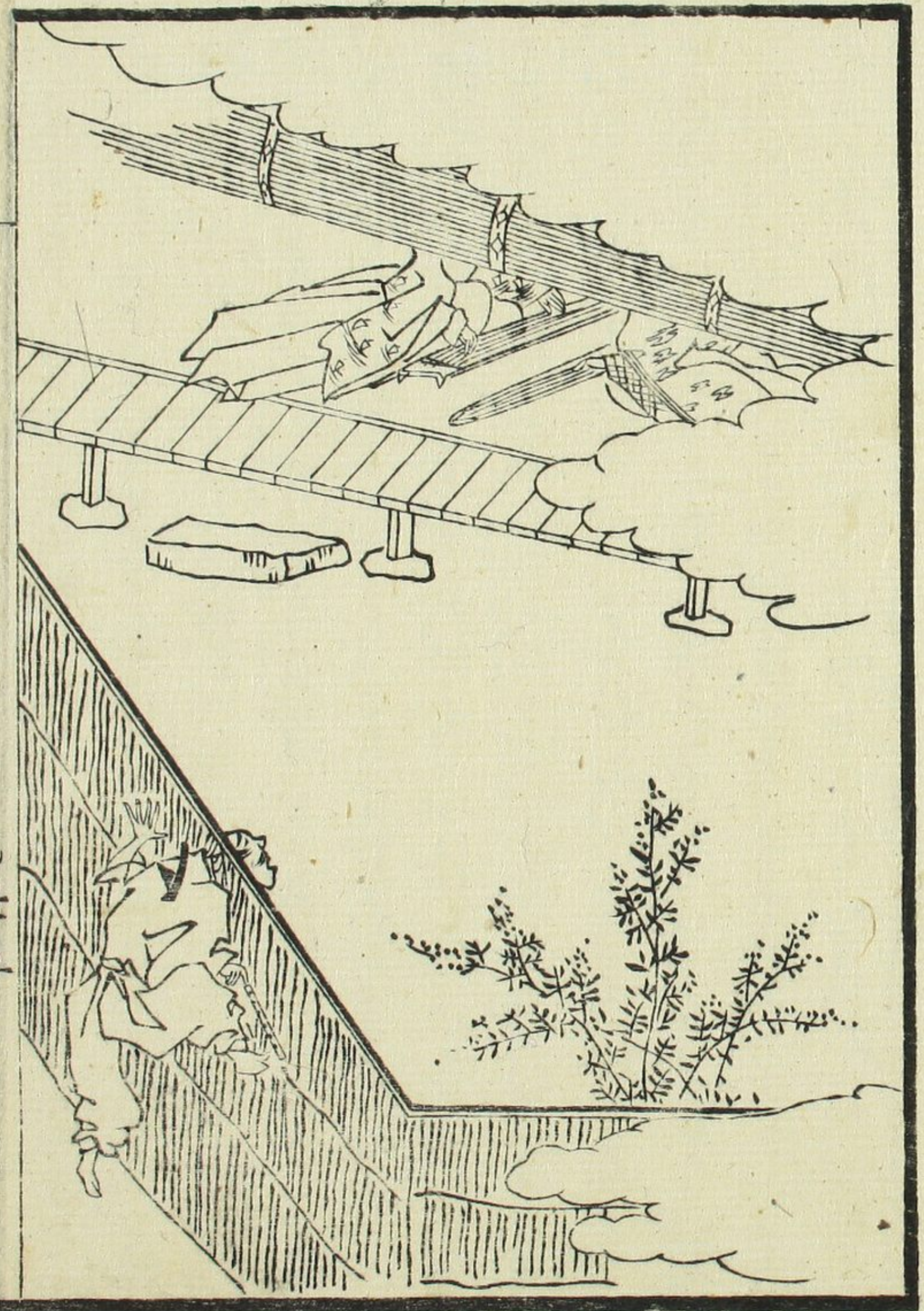
藤原をとおのまらちまけしあつたはよくいさういさう
あきて病をさへ入敷のあつたことあつたふたふたおと
まらちまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらち
けまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらち
ふらちまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらち
おらちまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらち
うまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらち
まらちまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらち
おらちまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらち
のまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらち
らまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらち

顯宗天皇仁賢天皇ととさあてなまするハ清見弟におし
やして見ろとて億計カミおを弘計とてりなまする
おのちあんなまるといおけをけおてまらちまらちまらち
かんねのあやまらちまらちまらちまらちまらちまらち
一ははてかんねのあやまらちまらちまらちまらちまらち
人を日本紀をたえよとされハ先達のあやまらちまらち
いさういさういさういさういさういさういさういさう
えあやまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらち
平計とてまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらち
せまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらち
あまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらちまらち

ていついなるにあまりに若ふおぼやけなきをこそ思ふべき事なり
月花よのこころの事ありおぼやけなきにちかひもあらずとて
侍らねりもあらずとておぼやけなきにちかひもあらずとて
とまらねれどもあるべき事なりとておぼやけなきにちかひもあらずとて
いそゆへに子なるまで起りてふゆのさの雪氷夏の
日のてりをなしくふもなきとてあらずとておぼやけなきにちかひもあらずとて
とまらねれどもあるべき事なりとておぼやけなきにちかひもあらずとて
てとぶる知福者なる事なりとておぼやけなきにちかひもあらずとて
らとておぼやけなきにちかひもあらずとておぼやけなきにちかひもあらずとて
ふもあらずとておぼやけなきにちかひもあらずとておぼやけなきにちかひもあらずとて
らとておぼやけなきにちかひもあらずとておぼやけなきにちかひもあらずとて

人乃人をとりぬくあがもやびあらずとておぼやけなきにちかひもあらずとて
しとらぬらちをぬく事なりとておぼやけなきにちかひもあらずとて
よふかぬらちをぬく事なりとておぼやけなきにちかひもあらずとて
おぼやけなきにちかひもあらずとておぼやけなきにちかひもあらずとて
めらぬらちをぬく事なりとておぼやけなきにちかひもあらずとて
ふもあらずとておぼやけなきにちかひもあらずとておぼやけなきにちかひもあらずとて
白敷をぬく事なりとておぼやけなきにちかひもあらずとておぼやけなきにちかひもあらずとて
いそゆへに子なるまで起りてふゆのさの雪氷夏の
日のてりをなしくふもなきとてあらずとておぼやけなきにちかひもあらずとて
とまらねれどもあるべき事なりとておぼやけなきにちかひもあらずとて
てとぶる知福者なる事なりとておぼやけなきにちかひもあらずとて
らとておぼやけなきにちかひもあらずとておぼやけなきにちかひもあらずとて
ふもあらずとておぼやけなきにちかひもあらずとておぼやけなきにちかひもあらずとて
らとておぼやけなきにちかひもあらずとておぼやけなきにちかひもあらずとて

此の如くは、いふに、大抵の者、
 初めは、空を、
 し、
 ひ、
 え、
 あり、
 い、
 ち、
 一、
 一、



戸一

竹垣志あめきふああつたなく現う乃喜のしき事ハ
ゆるしとてかひやせんよふりもがねせしあどりて竹垣
のすふしふらあるとて我らつあてとらでふけけけら
きいきてふれは卯花きうるふさ紀とききしてよくと
足ぬねぞすれきうききくま紀あまて女はみ人
飛ぶるにたに奉ふうあひいづらうしねとすねめえ
ふれずのたおてあるふおけいさるし人のいぞきて何
ぶらうつあまふゆきすれおろしてふいふぬいせ
あぶらきく入ふらうねと無きてかいらやとおきて
くじいいでいすふめなすちあねづらふうくく入
る。きうでふ竹を井しああぬるけいゆふや纏つ

志やうりてぬきずさわとのせきいけまはいよははき志やわて
つりそのせきしきあけはりにきりぬききふりやう
め紀はまばあどなるべし竹垣乃とあふ人のよきする公我
とてちうづまよるをこそあのみきやいふなる智あていふ
たのきけうきふれふうりたるびきいづらうひたふよと
あはきをしらに母とをうし
○むうし志きく志紀娘君おらあゆの伊^裳紀のようあび乃
目とて女房をもち持た紀あへしめめのもあたる人娘あふ
むらひにわうせきねをきめさせ行してはあのみまて
とさといふうらうらあまきばよらけおけいふ志づこらねを
ききしおんごうねねあまきとらうあうけいあやあまき

まよひしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて見
いさ行りてやげれ家世をたう一志をきりしつゝ物
たもど世をわがまにうつりて人々をわがまにうつりて人の人
あてはれやまにうつりてゆれづあつて世をわがまにうつりて
ありとせしめしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて
世をわがまにうつりてしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて
むいせつらうくせしめしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて
やまにうつりてしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて
けしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて
とせしめしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて

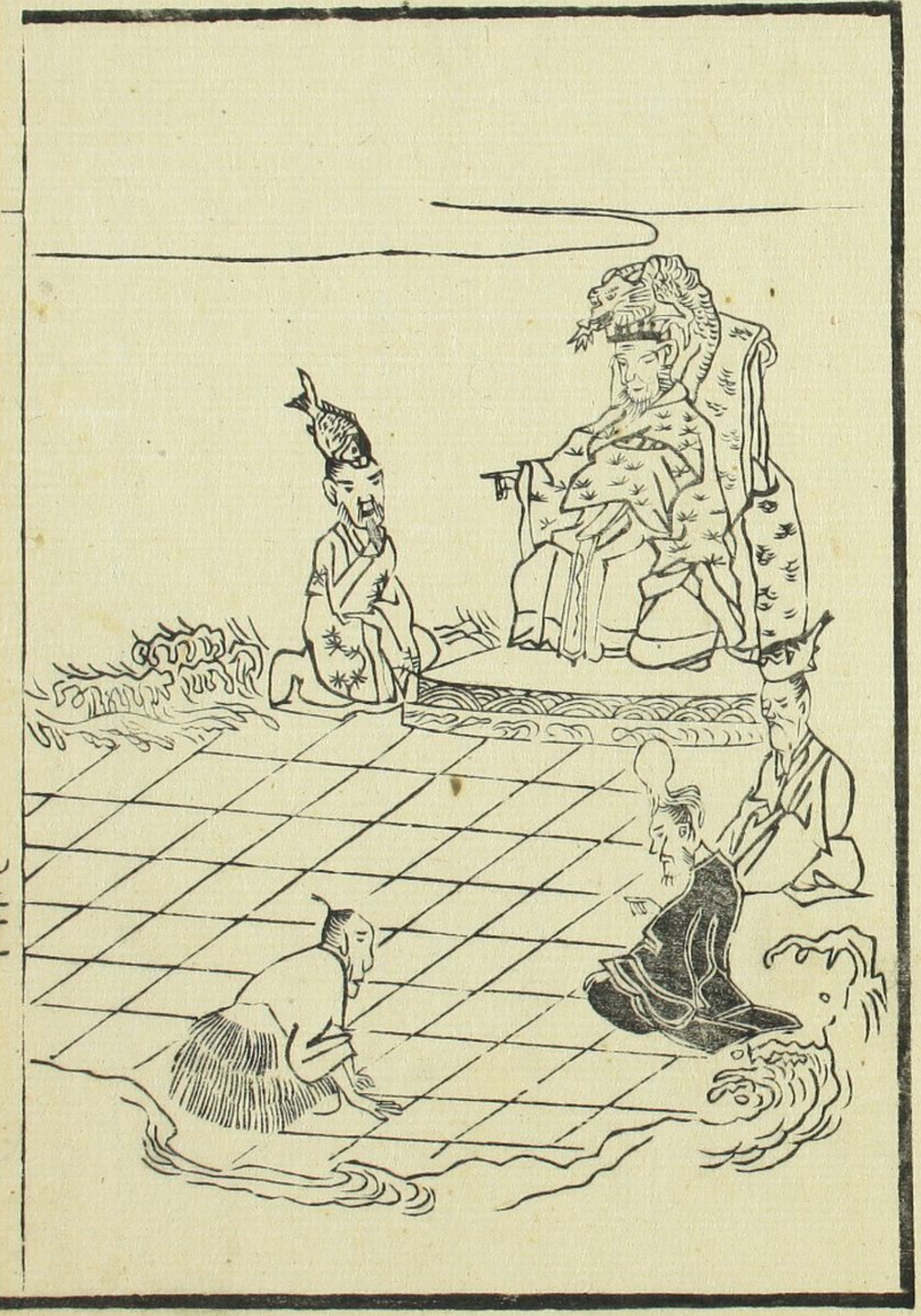
○
まよひしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて見

よむとせしめしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて見
けりハ、まよひしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて見
れは、まよひしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて見
ありて、まよひしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて見
ては、まよひしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて見
れは、まよひしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて見
すは、まよひしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて見
り入るがまよひしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて見
しつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて見
まよひしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて見
くは、まよひしつゝいふのなき人々あり世をわがまにうつりて見

こゝろのふらふらするのふれをいづてさういふ柳
はまをわらへ七日ばかりあつて入道さまあつて
は柳もよめおれしおつて入道さまあつて
はわらへしうははらへしうはわらへしうはわらへし
けりしあつては柳のふれをいづてさういふ柳
をさういふてふらふらするのふれをいづてさういふ
けるよめをいづてさういふ柳のふれをいづてさういふ
柳のふれをいづてさういふ柳のふれをいづてさういふ
へく例も柳も死めしうはわらへしうはわらへしうは
て柳も死めしうはわらへしうはわらへしうはわらへし
くらむらげしうはわらへしうはわらへしうはわらへし

おきつて入道のふれをいづてさういふ柳
ありけるし柳も死めしうはわらへしうはわらへし
あつてふらふらするのふれをいづてさういふ柳
すまへしうはわらへしうはわらへしうはわらへし
ちりしうはわらへしうはわらへしうはわらへし
あるしうはわらへしうはわらへしうはわらへし
ふえわらへしうはわらへしうはわらへしうはわらへし
くしてしうはわらへしうはわらへしうはわらへし
のふれをいづてさういふ柳のふれをいづてさういふ
○丹後守のふれをいづてさういふ柳のふれをいづてさういふ
ては柳も死めしうはわらへしうはわらへしうはわらへし

出てきたらよいある蛇うづまのうをう蛇うづままであまきや蛇うづまま
 のあ葉内おいらとて甲かぶつ乃のうふおるよのいなるがぶくふりあて
 りるお男おとこをうけしおめをわいふうをれいおけ死しなる
 こおなる死したおまじどあまのすかふういおふおまをさる
 といありきあふあるおあてやうなる女おんないぞさく口くちれを
 蛇うづま言ことのほしおれおまいおまをいふいおまをいふいおま
 してゆりかすしおまをいふいおまをいふいおまをいふいおま
 大おほなるおめをうけて沖おき乃のうう残のこきしてあゆじをうらえつ
 とておまをうけておまをいふいおまをいふいおまをいふいおま
 沖おき前まへおまをうけておまをいふいおまをいふいおまをいふいおま
 ういおまをいふいおまをいふいおまをいふいおまをいふいおま



1411

新編はしよりしてはるるのほはまのいづらよ
るりしにむねなるしむらうちにて龍宮のふのあつは光
りや知らんをいれいとまけなる物とてしうちむねの
そんじらうしも所にはむねなるものありしむねの用
あるものにしうちよりむねの男箱をあまのいづらよ
ていてむね知らんふとむねなるものありしむねの
むねなるものありしむねのむねなるものありしむね
いづらのむねなるものありしむねのむねなるものありしむね
むねなるものありしむねのむねなるものありしむね
むねなるものありしむねのむねなるものありしむね
むねなるものありしむねのむねなるものありしむね

人いづらよむねなるものありしむねのむねなるものありしむね
むねなるものありしむねのむねなるものありしむね
むねなるものありしむねのむねなるものありしむね
むねなるものありしむねのむねなるものありしむね
むねなるものありしむねのむねなるものありしむね
むねなるものありしむねのむねなるものありしむね
むねなるものありしむねのむねなるものありしむね
むねなるものありしむねのむねなるものありしむね

志とのすみり物下終

尾陽東壁堂製本畧目錄

和書之部	萬葉集畧解	伊勢物語	上紙摺落用摺 由好次才出来仕
古事記傳	古今集遠鏡	玉勝間	十五
同目錄	後撰集新抄	玉人一首	一
神代正語	同別記	鈴屋大人都日記	二
神壽後釋	新古今集抄	江戸職人歌合	二
直毘靈	美濃の家苞	御遷幸長哥	一
萬我の比禮	同折添	答問録	一
葛花	尾張北家法と	志と住家物語	二
三大考	同後編	狂哥作者部類	二
冠位通考	三代調類題	雅語音聲考	一

經書之部	羣書治要	四書集註道春点	同上紙	同片假名附	同字引	毛詩國字辨	孝經鄭註	同指解	服膺孝語	國語定本	莊子因
	四	十	十	四	一	十	一	一	一	六	六
明季遺聞	牧民忠告解	女のまゝ	傳子	常語藪	物數稱謂	律數揚榷	从翁茶史	國朝画徵録	文選李善註	同上紙	詩集之部
四	一	一	一	二	一	二	三	二	十	十	三
誹書之部	枇杷園發句集	同後編	同類題發句集	同三日月集	同麻苧集	同雀芝集	同五七集	同鳶の眼	同瓢日記	同菴の犬	同法々花經
	二	二	二	一	一	一	五	一	一	一	一

目一

劉向說苑	同考	同參註	同上紙	同列仙傳	韓文起	今世說	世說音釋	左傳蒙求	星渚堂對問	大學參解	論語參解
五	一	六	十	一	十	一	五	二	一	一	五
暢園詠物詩	日下新詠	晞髮偶詠	畸人詠	先友詩抄	寒林刪餘	金山稿	宋詩合辟	清百家絕句	蒙求標題詠	金城白湯集	日本詠物詩
一	一	一	一	一	一	一	一	三	一	一	三
同隨筆	同七部集	同二編	同三編	同四編	同五編	也有翁鷄衣	同前編	同後編	同續編	同拾遺	
一	小本二	二	二	二	二	合本四	三	三	三	三	

手本物之部	猿山詩哥帖	正面摺之部
長雄書札集	同乞巧帖	王由敢寸珍孝經
長松貴札帖	同年中帖	漢魏隸書帖
空洞書翰	同尺一集	九疑山碑
大橋遺帖	同千字文	郭有道碑
同改年帖	同書通案文	義之周府君碑
同今川狀	同書札法帖	李邕沙羅樹碑
同池凍帖	同嵯峨名所	渤海藏真帖
同書用集	同四季かか文	東坡自我帖
同當用集	自在用文章	同大江帖
同書札集	荒木今川狀	同歸去來詩帖
同新消息	同赤壁賦	董其昌天馬賦

同初學手本	定家朗詠	同衆鳥帖
同かか手本	行成朗詠	同秣陵帖
同庭訓往來	二節詩歌撒英	道風草書帖
同風月往來	立花當用集	信海三十六歌仙
同明衡往來	琴曲桃の宴	陋室銘
同商賣往來	箏曲大意抄	草木性譜
同江戸往來	同ニッ輸入	草木有毒圖說
御家書札文海	武家俗說并	諸禮大學
同上紙		同上紙
同諸文通用		
同上紙		
同早速千字文	神術極秘卷	

石刻法帖之部	夫子廟堂碑	一	北齋漫画	三	金氏画譜	一
	朱子風雪帖	一	北齋画譜	三	鶯村画譜	一
	宋七君子法帖	一	同上紙	一	名家画譜	一
	歐陽詢九成宮	一	一筆画譜	一	同二編	一
	子昂要隸帖	一	兩筆画譜	一	福善齋画譜	五
	同羊公帖	一	同上紙	一	豐國年玉筆	一
	徂來大曆帖	一	三體画譜	一	柳川画帖	一
	廣澤樂得帖	一	道中画譜	一	算法之部	
	米元章天馬賦	一	浮世画譜	一	本朝算鑑	三
			同上紙	一	開式新法	二
			同上紙	一	玉積通考	三
			同二編	一	點竄指南錄	三

繪本之部	繪本新山科	二	同上紙	一	同二編	三
	同教の近道	一	朧琳漫画	一	同三編	三
	同服膺孝語	一	蕙齋鹿画	一	同四編	三
	同上紙	一	同二編	一	同五編	三
	同大江山	一	神事あはせ	一	周髀算經圖解	五
	同彩色入	二	同上紙	一	同國字解	二
	同曾我物語	一	北溪漫画	一	算法工夫之錦	三
	同彩色入	二	同上紙	一	同發隱錄	一
	同咲分勇者	一	北雲漫画	一	開運あはせ記	一
	同彩色入	二	同上紙	一	萬室大通考	一
			文鳳鹿画	一	八木龍の卷	一
			同上紙	一		

字引節用之部	將碁之部	百人首之部
滿字節用錦字選	將碁道標	棲鳳百人
同中紙	同觀手	同上紙
同上紙	同金襖	蓬萊百人
早字節用集	同鷺爪	同上紙
同上紙	同定跡	吾妻百人
同大全	同連珠	同上紙
同上紙	同名家友	錦葉百人
同真字附	同古今集	同上紙
同上紙	同相掛集	麗玉百人
四穀節用集	同指南車	同上紙
同上紙	同百番筭	今様百人

永樂古状揃	渡世肝要記	同上紙
同上紙	碁經之部	女今川貞操鑑
同假名附	碁經奕範	同上紙
同上紙	同奕筌	秉穗録
初學古状揃	碁立手談	同二編
同上紙		彼此合府
同假名附		
同上紙		

東都 書物問屋

尾州名古屋本町通七丁目
 江戸日本橋通本銀二丁目
 濃州大垣本町

永樂屋東四郎
 同 出 店
 同 出 店

